「解答例」・「出題の意図」

選抜区分	2022 年度　（選抜区分：一般後期） 文学部　比較文化学科　　（科目名：小論文）

問題 1（標準的な解答例）

織田信長の「国際日本」モデルは、異国の文物を積極的に取り入れ、あるいは逆に国内の優秀な人材を留学派遣するなど、外部との交流に開かれた、文化的な代謝を重んじる体制だが、西洋との物理的な遠さが障害となり、定着しがたいものである。豊臣秀吉の「大日本」モデルは、脅威になり得る西洋列強の接近・介入は遮断しつつも、他方で、日本の影響圏・支配領域を東アジアに限定して拡張しようとするもので、地政学的に見て十分な実現可能性をともなっていた。徳川家康の「小日本」モデルは、西洋の政治的影響力には真っ向から対抗し得ないと判断した上で、後々鎖国という形に行き着き、外部に対して閉じるが、それと引き替えに、内部にはきめの細かな支配体制を確立しており、外部に依存せず国内で自足したような、循環型の持続可能な社会を実現した。（349 字）

問題 2（評価のポイント）

①文章読解力：問題文の論者は、日本や日本人を真っ向から当事者として論じるのではなく、「日本や日本人を論じるということがそもそもどういうことで、何に動機づけられているのか」を、批判的な距離を取りながら論じている。このことをまずは文章から読み取れているか。

②知識の応用力：日本人が他ならぬ日本人であるということ（アイデンティティ）の不確実さや不安に突き動かされて、「日本人とは～である」と分かりやすく定義して安心を得ようという心理、そしてその所産としての日本人論が、自分の身のまわりにもありはしないか眺め、例として挙げることができているか。

③批判的な考察力：問題文から、日本人論に対する（自己）批判的な視点を得て、それを解答に反映できているか。現状の説明や肯定に満足せず、物事を別の角度から捉え直す余地を、貪欲に模索できているか。

（解答の一例）

新型コロナが世界的に感染拡大する中、日本での感染者が比較的抑えられていた頃、それが日本人の元来の潔癖や、「命令」でなく「要請」にさえ従う律儀さの賜物だという見解が、手前味噌に報道された。しかし、「要請」が無視され始めて為政者も専門家も苦言を呈したその後の状況、および感染拡大に鑑みれば、先の日本人論は根拠薄弱な自画自賛であった。このような言説が跋扈した背景には、人類を見境なく襲うウィルスに対する恐怖・不安と、これへの反動として、「しかし我々は助かる、なぜなら日本人は…」と日本人を特殊に定義して安心を得たいという心理があったのではないか。つまり、歴史的に積み上げられて来た文化的アイデンティティを無化する自然の脅威を、似非文化論で上書きして、心をなだめようとする操作が働いた。また、日本において感染者数が抑えられている原因が謎だということの不気味さ、真相解明への焦燥も、安直な日本人論を動機づけた。（400 字）